

BARÁTSÁG

バラツチャグ(友情)

日本ハンガリー友好協会会報

2019年12月24日発行

発行所: 日本ハンガリー友好協会

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-28-11

クレール五反田609号

TEL: 03-3473-9870 FAX: 03-3440-9495

<http://www.jpnhun.org>

No.170

日本・ハンガリー外交関係開設150周年 ～写真で綴る記念年～



2/14



150周年記念 オープニング・セレモニー



2月

ツインバロン演奏会



4月

写真展



5月

コンサート



6月

コンサート



10月

大統領来日 河野会長会談 大使館レセプション

(写真提供: 大使館)



記念切手
日本

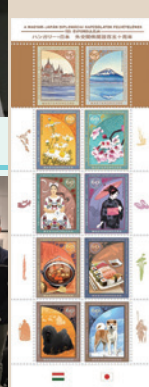


12月

首相来日 国立新美術館ブダペスト展



記念切手
ハンガリー



12月

文化センター オープニング



7月以降の協会後援イベントは4頁、5頁でご紹介しています。

BARÁTSÁG

150周年の今年一年を総括して

日本とハンガリーが外交関係を開設して150周年の今年、これを記念して、多くの両国要人の相互訪問が行われた。中でも日本からは9月に秋篠宮佳子様がハンガリーをご訪問され大変な歓迎を受けられたが、それが日本のマスコミに多く取り上げられた。

ハンガリーからは10月の即位の礼出席のためにアーデル大統領が来日し、その際に大統領と河野協会会長との会談が行われた。また両国で発行した150周年記念切手の相互の贈呈式が、大統領と日本郵便横山社長との間で行われた。12月にはオルバーン首相が来日し、国立新美術館で行われているブダペスト国立西洋美術館等所蔵の名画の展覧のオープニングに出席した。

この1年間大使館、日本各地でも数多くの記念行事が行われたが、ここでは主に協会が主催、後援等を行った主なイベントについて簡単に振り返ってみたい。

まず2月には、ザ・ホテルキャピタル東急において、協会のオープニングを行った。来賓として衛藤征四郎友好議連会長等多くの要人の方々を含めて220名の方々に出席を賜ったが、河野外務大臣(当時)が急にサプライズで出席され挨拶をいただいたため、多いに場が盛り上がった。このオープニングでツインバロンを演奏したハンガリーの世界的名手ヘレンチャール・ヴィクトリアさんには、各地で公演を行ってもらったが、京都吉田山荘では青蓮院門跡の東伏見慈晃氏にもご臨席賜った。氏のお父上は昭和天皇の香淳皇后の弟君である。7月にはカンテムス混声合唱団の日本公演、7月と8月にはバサント・イヴォラ写真展と日本ドナウフォトクラブの写真展がそれぞれ開催された。また6月には洗足学園音楽大学マスターズコンサートが同大学で、10月にはジュール・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会が武蔵野音楽大学で開催された。

1年を通じて多くの要人往来、イベント等もあり、「今年は150周年。」がかなり浸透したように思われる。これも、ご賛同とご協力を頂戴した多くの企業等の方々のお蔭である。お名前は省略させていただくが、ここに厚くお礼を申し上げたい。そして今年1年を節目として更に日本とハンガリーの友好関係が発展することを願っている。

理事長 鍋倉 眞一

吉岡さん、ありがとうございました



2015年から協会事務局長として、献身的に協会の運営、会員の皆様、大使館とのパイプ役の務めを果たされてきた吉岡直道事務局長、11月2日に永眠されました。3年間、病魔と闘いながら、強靱な体力と精神力で事務局の仕事を遂行し、職務を全うされました。

キャリアのスタートは、三井物産勤務時代のイラン・ジャパン石油化学(IJPC)プロジェクトへの参画で、中東戦争のさなか、長期にわたり現地で奮闘されました。当時のお仲間たちは戦友のような存在だったかと察します。その後、ハンガリーで通算10年間駐在員生活をなされ、日本人会の運営にも努め、退職後日本ハンガリー友好協会の理事、事務局長の任につきました。

年間350時間以上、協会の五反田事務所で事務局のお仕事をなされ、理事会の運営、イベントの準備、会報の編集、大使館との連絡、経理のお仕事、メール連絡、はては事務所の清掃など、協会の運営だけでなく、事務所の主の役割も果たされてきました。理事や会員からの相談にも快くのってくださり、何でも吉岡さんにお話すれば、どうにかしてくださると、無理難題を持ち掛けたこともあります。

日本ドナウフォトクラブに所属し、カメラが大好き人間で、ハンガリー撮影旅行にも何度も参加され、グループ展で美しいハンガリーの風景を展示されていました。イベントで一緒の時には、大きいカメラを持参し、希望するショットを取ってくださり、会報編集に助言していただきました。

イベントの度に受付をしたり、走り回ったりしてくださった奥さまの、玲子さんは東洋英和女学院でピアノを教えられていて、吉岡さんがハンガリー駐在員中は一緒に生活され、友好協会ではハンガリー語を学ばれました。10年間、僕に付き合わせてしまったので、帰国後は妻のために何でもしているのですと、お話しされていた吉岡さん。羨ましいほどの愛妻家でした。

事務所で右往左往する私たちの姿を天国から眺め、ご指示くださる言葉を心の中で受け止めてまいります。長い間ありがとうございました。

ハンガリーの医療事情

2019年7月25日のインターネットポータルサイトindex.huは、化学(抗がん剤)療法を受けるために国立癌研究所の廊下で順番待ちしている患者をレポートしている。それによれば、7時30分の診察受付時間にもかかわらず、多くの患者が午前5時頃から建物内の階段付近に行列して待機しているという。なぜなら、診療の番号札を取るために、なるべく早く番号札発行機にたどり着くことが必要だからである。待合室が開くのは7時。本来なら、不要な混雑を避けるために導入された番号札発券機だが、発券機に並ぶ順番を患者同士が決めている。そのために、毎朝、数十人の行列ができる。

ハンガリーでは民間クリニックの腫瘍治療が禁止されている。したがって、標準治療、とくに抗がん剤治療を受ける地方の患者が朝一番の列車で総合病院や癌研の治療を受けに来る。抗がん剤治療は午後3時に終了するので、その日のうちに治療を受けるために、早い番号札を取ろうと、早朝から並ぶ。遅い番号札を引くと、その日のうちに治療を受けられない可能性が高い。そうなれば、翌日に出直さなければならない。このような状況は他の公立病院でも一般的にみられる現象である。

この報道がなされてから、国立癌研究所は早朝に患者を建物内部に入れることを止め、門外に待たせることで建物内の行列を解消している。患者を待たせることなく、患者の立場に立って医療サービスを提供しようという発想が欠如している。

体制転換前から旧社会主義諸国の医療システムには根本的な欠陥があった。その元凶は私が「医師主権」と名付けている医師ファーストの医療体制である。もちろん、医療において医師が中心的役割を果たすのは当然だが、すべてが医師の都合を最大限考慮したシステムとして機能し、患者はそれに受動的に従うしか方法がない。患者受入れサービスという発想自体が存在しないのだ。

だから、社会主義国では長い間、公立病院や地域の公的クリニックには患者を受け付けるシステムがなかった。患者は診療を希望する医師の診察室の前で順番を待つだけで、患者同士が相互に順番を確認し合うか、看護師がドアを開けたときに保険証を渡して診察を受

ける。最悪の場合、10名近い患者が我先にと保険証を渡そうとする。この競争から外れた患者は何時まで経っても診療を受けられない。看護師は決して部屋の外に出て患者の診療を誘導することはなく、医師と共に部屋に閉じこもったままである。この状況は多くの病院で今なお改善されていない。

こういう状況下で、公的保険をもっている、外国人が治療を受けるのは簡単ではない。だから、外国人駐在者や金持ちは公立病院や公的診療所を避けて、民間クリニックで自費診療を受ける。民間クリニックでは診療予約を受け付けるので待ち時間がない。その代わり、公的健康保険は一切利かない。クリニックによっては、健康保険の提示で「10%割引」を謳っているところもある。私はこれを「公的健康保険の割引クーポン化」と名付けている。毎月払っている健康保険は、割引クーポンの役割しか果たしていないからである。

さらに歪なことに、公立病院内部に民間クリニックが開設されてところもあり、そこでは租界的な医療サービスが行われている。もちろん、賃料を払って開設しているのだが、ダブルスタンダードの医療システムが目で見えるようになっている。民間クリニックには専属医師もいるが、ほとんどは他の公立病院の勤務医で、週何回か民間クリニックで診察業務を行っている。

こういう状況の中で、民間クリニックは繁盛しており、歯科、産婦人科、眼科の順でもっとも多く患者を受け入れている。公的保険料支払いは義務であり、あらゆる種類の所得支払いから自動的に天引きされる。健康保険を使えば治療費は請求されない(手術の際に医師や看護師にお金を渡すが)。しかし、何時治療が行われるか見当がつかない状況が待っている。だから、支払いができる人たちは、最初から民間クリニックへ行く。公的保険は掛け捨てになるが、待ち時間がなく、医師や看護師に「チップ」を支払う煩わしさからも解放される。

立山R&D ヨーロッパ KFT.

盛田 常夫

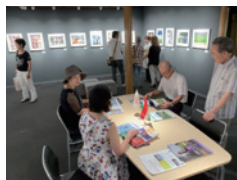
ハンガリー・カンテムス 混声合唱団の来日！



ハンガリーのニーレ
ジハーザの小さな小学
校のカンテムス少年少
女とめぐり合ってから
27年。毎年のように
大きくなった合唱団のファミリーのいずれかが
来日して、すっかり仲良しになりました。日本
語が本当にわかっているかと思える指揮者デー
ネシュ・サボーさんから昨年のある日、ファミリー
の中での親玉のような存在の混声合唱団を日本
に短くてもいいから、是非招聘してほしいと依
頼されました。ビッグなリーダーになった息子
のショマ・サボーとともに懇願されて実現した
のが7月4日からの日本ツアーでした。日本の
若者たちはこれこそ「熱望していた素晴らしい
混声の演奏」だと、心からの感動に震えました。
小さかった少年たち、何度も来日して「先輩顔」
をした女性たちによる、東京、名古屋、大阪と
夢のような2週間を過ごしました。

日本ハンガリー合唱交流委員会 ごとうだ ふきこ

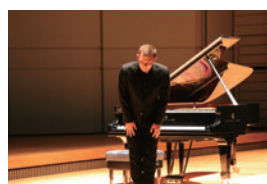
日本ドナウフォトクラブ写真展 「魅惑の国・ハンガリー」



日本・ハンガリー外交関
係開設150周年記念事業の
一環として、8月22日(木)
から28日(水)まで、東京・
四谷のポートレートギャラ
リーで写真展「魅惑の国・ハンガリー」を開催し
ました(18名、48点)。2014年9月と2019年
5月のハンガリー撮影旅行に参加した会員の作
品を中心に構成しましたが、ハンガリーに行っ
たことがない会員も、日本で活躍するハンガ
リー人取材した写真を展示したほか、ハンガ
リーに在住する名誉会員も特別出展しました。
22日のオープニングパーティーには、ハンガリー
大使館のナジ・アニター等書記官をはじめ、友好
協会の鍋倉理事長、猪谷専務理事、日本写真
協会関係者ら、多くの来場者があり、和やかに
かつ盛大に行われました。会期中は、300名
以上の来場者がありましたが、来場された北区
商工会議所の会長さんから、秋に開催される
北区のハンガリーフェアに写真展示の嬉しい
協力要請がありました。

日本ドナウフォトクラブ会長 田崎 龍一

アダム・ジョージ ピアノリサイタル



10月15日(火)、日本・
ハンガリー外交関係開設
150周年記念、アダム・
ジョージ ピアノリサイタル
が開かれました。1982
年ハンガリー生まれ、バルトーク音楽院、リスト・
フェレンツ音楽院で学び、2008年26歳でカー
ネギーホールデビュー公演を成功。伝統を
重んじつつ即興で独創的演奏も行い、類稀なる
才能と評価されています。

当日は最初にハンガリー大使が150周年行事
で多くのハンガリー演奏家を招くことができ光
栄ですとご挨拶。ハンガリー民謡をアレンジし
た民族音楽と古典が溶け合う即興曲、ショパン、
リストのパガニーニ、ハンガリー狂詩曲等が披
露されました。ショパンの流れるようなノクター
ン、リストの熱情的な音楽、ハンガリー狂詩曲で
その技巧は頂点に達し、最後にメンデルスゾー
ンの結婚行進曲を変奏曲で演奏された時は会
場に祝典が響き渡り割れるような拍手でした。

第16回ゾンゴラコンサート ～北海道に伝えるリストの系譜～



2011年からスタート
したZongoraの会の
F.リスト全曲演奏シ
リーズも6回目となり、
今回は<歌の翼～リ
ストとメンデルスゾー
ンをつなぐ～>というテーマで演奏会を、9月
29日(日)札幌市生涯学習センター・ちえりあ
ホールで開催しました。

ロマン派の隆盛に大きな役割を果たした2人
の作曲家の作品を「歌」で繋げるという形でプ
ログラムは進行しました。ゲスト出演のソプラノ
歌手松井亜樹さんにメンデルスゾーンの代表的な
歌曲を歌っていただき、その後リストの編曲版を
ピアノ独奏で披露するなど、ピアノ、バイオリ
ン、2台のピアノ、それぞれの演奏を通して、
同時代に生きた2人の作曲家の魅力をお伝え
できたかと思います。今後も演奏家、作曲家、
教育者、宗教家として活躍したリストの作品を研
究し、彼の音楽への思いを演奏で表現するため
に会員一同研鑽を積んでまいりたいと思います。

Zongoraの会会長 小杉 恵

ジュール・フィルハーモニー 管弦楽団演奏会



10月24日(木)武蔵野音楽大学ベートーヴェンホールにおいてジュール・フィルハーモニー管弦楽団演奏会が開催され、同大学で25年間教鞭をとったベルケシュ・カールマン氏の指揮で、バルトーク、リスト、コダーイの名曲が熱演されました。このコンサートは、日本・ハンガリー外交関係開設150周年、ジュール・フィルハーモニー創立125周年、さらに武蔵野音楽学園創立90周年を記念して、駐日ハンガリー大使館と同大学の共催で行われたものです。演奏会に先立ち、まずハンガリー国特命全権大使とジュール・フィルハーモニー管弦楽団監督の祝辞、続いてジュール市長より武蔵野音楽大学副学長・福井直昭氏に授与された記念シルバーメダルの贈呈式、同管弦楽団から同大学へ贈られたフランツ・リストの胸像の除幕式が行われ、武蔵野音楽大学とハンガリーの長年に亘る交流の歴史に新たな頁が加わりました。

理事 重松 聡

「ヨーロッパ王室の女性たち」 ～聖心女子大学での150周年記念イベント～



11月16日に聖心女子大学で、日本・オーストリア・ハンガリー国交樹立150周年を記念し「ヨーロッパ王室の女性たち」と題する催しが開催されました。毎日新聞社主催、聖心女子大学・関東学院大学・オーストリア・ハンガリー両大使館の後援により実現したこの催しは、「第一章」と「第二章」の二部構成となっており、前半では聖心女子大学の桑名映子による講演「ハプスブルク家の女性たち」に続き、元宝塚歌劇団宙組トップスター姿月あささんとミュージカル俳優の岡幸二郎さんをお迎えしてミュージカル・コンサートが開催されました。後半では関東学院大学の君塚直隆教授による講演「ヨーロッパ王室の勲章戦略」に続き、リスト音楽院・東京音楽大学教授ファルカシュ・ガーボルさんによるピアノ・コンサートが開催され、いずれも多数の来場者から盛んな拍手が送られていました。 桑名 映子(会員)

素敵なハンガリー年



ハンガリー外交関係開設150周年記念に当たり遊佐町でも、中高生による恒例のハンガリー訪問(3月)に始まり、人形劇Kolibri劇団の公演(8月)、ソルノク市ケーレシ芸術小学校来町(9月)、ファルカシュ・ガーボルピアノリサイタル(10月)と行事が続きました。

人形劇の公演は、小さな子どもたちへと交流の輪を広げました。ケーレシ小学校は春の訪問団の訪問先であり民泊も引き受けていただいています。遊佐での再会を喜び合い、幼稚園や小中学校、更には帰途に滞在した遊佐町の友好都市豊島区に於いても見事な民族舞踊を披露してくれました。F・ガーボルは可愛い家族を伴った12年振りの来町でした。多くの町民が彼の素晴らしい演奏を堪能しました。そして11月、交流の顔であるヤースクン・日本友好協会会長コバーチ・ミハイ氏叙勲の吉報で素敵な1年を締めくくりました。

高橋 繁子(会員)

LET'S COME TOGETHER ～届け、君に～



クラシック音楽を子どもたち、そして、みんなで楽しみましょう!という趣旨で、11月28日(木)横浜市青葉区のフィリアホールで150周年記念コンサートが開かれました。出演者は梯剛之(ピアノ)、コハーン・イシュトヴァーン(クラリネット)、松本紘佳(ヴァイオリン)、萩原淑子(ヴァイオリン)、松本友理江(ピアノ)。プログラムは梯剛之さんによるピアノソロでショパンのノクターン、松本紘佳さんと萩原淑子さんによる2台のヴァイオリンのための作品、サラサーテのナヴァラ、コハーン・イシュトヴァーンさんとピアノ伴奏松本友理江さんによる、リスト＝コハーンのハンガリー狂詩曲第12番など、みなさんが楽しめる作品ばかりでした。友好協会で長年応援してきた萩原淑子さんと松本紘佳さんのデュオを松本友理江さんの伴奏でお聞きできたことはとても嬉しいことでした。

汎ヨーロッパピクニックから30年

昭和が終った平成元年(1989)年4月、私は一年間の予定でブダペスト工科大学へ向い、客員教授として着任、特別滞在許可書を得た。これはハンガリー国内ではパスポートの代わりとなり、国境を自由に出入りすることができた。その為、ビザ不要の西側諸国へはいつでも行き来することが出来、また、ビザを取れば東欧諸国へも自由に行けることになり、ベルリンの壁崩壊前後の東西両陣営の主な国々を見て廻ることができた。

当時のハンガリーは、ソ連傘下の社会主義国でありながら、経済改革とともに、政治・外交の姿勢も変えつつあった。また、1956年のハンガリー動乱後に処刑されたナジ・イムレの名誉回復の改葬式も行なわれた。当日は臨時の休日となり、テレビは朝から会場の英雄広場の様子を伝えていた。改葬式を見に行こうとしたところ、友人たちに強く止められた。それは、1956年、蜂起した群衆がスターリン像を引き倒し、動乱が発生したことがあったからである。今回は、改葬式の前日、巨大なレーニン像を、修理を名目に政府が撤去してしまった。式典には米ソの大使も臨席し、その様子はテレビで実況中継された。

5月2日、ハンガリー政府はオーストリアとの国境の鉄条網を突然撤去、ラジオ・オーストリアの英語ニュースで、鉄条網撤去後の国境を「グリーン・ボーダー」と呼ぶことを知った。グリーン・ボーダーによって、東欧諸国の人々は許可がなくても、西側に越境することが可能になった。

6月になり、東独の車が市内にあふれるようになった。ハンガリー政府は夏休みを繰上げ、学校の敷地内に東独の人々を収容した。その頃、民主フォーラムなどの共催で「汎ヨーロッパピクニック」が開かれた。フォーラム終了後、参加し

た東独市民約9百人がグリーン・ボーダーを越境して行った。それ以後、ここを不法に越境する東独人は、毎日、4、5百人の規模で続き、政府は毎日、その数を発表するようになった。グリーン・ボーダーによって鉄のカーテンに小さな穴が開き、これがベルリンの壁の最初の裂目となった。それから30年が経った。 監事 松尾 守之

ハンガリー映画特集&「もうひとりの人」

日独国交樹立150周年を記念し、10月10日(木)から20日(日)まで、長瀬記念ホールOZUでオーストリア映画・ハンガリー映画特集が上映されました。ハンガリー映画は「メリー・ゴー・ラウンド」1955、「もうひとりの人」1988、「私の20世紀」1989、「君の涙 ドナウに流れ」2006、「悪童日記」2013、が上映されました。



10月16日(木)に昨年12月生涯を閉じたコーシャ・フェレンツ監督の上記の映画が上映され、コーシャ・バーリン氏が作品紹介と監督である父の思い出を話されました。「もうひとりの人」は上映時間220分の長編で、第二次世界大戦末期の1944年を舞台とする第一部と、1956年のハンガリー動乱を描く第二部からなり、ある家族の3世代に渡る、時代の波に翻弄されながらも、銃を持ち人を殺す不条理に抵抗し、受難する姿が描かれています。

国立映画アーカイブのニュースレター第7号でコーシャ・バーリン氏は、第1部の主人公アンティーの息子の妙に大人びた表情の子供は、幼き頃の父そのものであった、、、この子供が青年となった第2部の主人公はニーレジハーザの郊外、貧民街に住む文学青年であった18歳の父の経験を反映している、と語っています。

お知らせ

第19回私のお気に入りのコンサート 都築らな&向田成人 ニューイヤーコンサート

日 時：2020年1月17日(土) 開演14:00
場 所：サロンドルチエ(岐阜)

【お問合せ先】 ぜねの会 tkn5420@ccn.aitai.ne.jp 北村

第23回リスト音楽院セミナー

日 時：2020年2月20日～24日
場 所：札幌コンサートホール

【お問合せ先】 s.kusaka@kitara-sapporo.or.jp 日下

オペレッタ 伯爵家令嬢「マリツア」

日 時：2020年3月7日(土)18:00
3月8日(日)14:00

場 所：北とぴあ つつじホール

【お問合せ先】 NPO法人日本オペレッタ協会事務局
marcoproduce@yahoo.co.jp 狩野

アンサンブル・ポエム第7回演奏会 —入間市民混声合唱団を迎えて—

日 時：2020年4月19日(日)開演14:00
場 所：秋川キララホール

【お問合せ先】 042-597-1655 浜中

新年会のご案内

2020年 日本ハンガリー友好協会新年会 ハンガリー大使館で開催 !!

恒例の新年会を 来る2020年2月14日(金)午後5時半(受付開始午後5時)から 駐日ハンガリー大使館で開催致します。大使館のシェフが美味しい特製のハンガリー料理を振舞ってくれます。ハンガリーワイン並びに音楽とともに新春のハンガリーの一日をお楽しみ下さい。

ご参加頂ける方は 会員のみ とさせていただきます。

事前登録申込み制と致しますので、
当日受付で 申込み(振込)後にお手元に届く「参加葉書」を提示願います。

収容人数に制約がございますので 早めの申込みをお願い致します。
締切日以前でも 申込者数が110名に達しますと、打ち切りとさせて頂くことがあります。
詳細は同封の別紙案内をご覧ください。
尚、お問合せは 事務局あて 郵便、ファックス、メール、電話(原則留守電となりますこと、ご承知おき下さい)をご利用願います。

2019年度(6月以降) カンパ協力者氏名 (敬称略)

7月 伊藤八重子(神奈川県)

10月 福井直敬(東京都)、黒田毅(埼玉県)、井ノ上蔵造(東京都)

8月 鈴木尚美(愛知県)、蔵田雅之、道子(東京都)

11月 大場嘉子(東京都)、保坂岳(奈良県)

「カンパ戴いたこと自体を多と致したく、金額は掲載致しません。ご理解願います。」

新規入会者のご紹介

8月 鈴木尚美(愛知県)

(敬称略)

事務局からのお知らせ

弊協会事務局へご用がございましたら、「ホームページの問い合わせ欄」、「電話(留守電となるケースが多くなると思います)」、「ファックス」、「メール」のいずれでも結構ですので、ご活用頂きますようお願い致します。
本年7月より協会経費の節約、タイムリーな情報提供等を目的として、イベント等の情報をメールにて配信致しております。現在約180名の会員の皆様の登録が完了しておりますが、今後メール配信をご希望される方(或は、現在メール配信を受けているが、配信ストップをご希望される方)は、お手数をおかけしますが、事務局までメールにてご連絡下さい。また、ご意見、ご要望がございましたらご連絡頂きますようお願い致します。

連絡先: E-メール jpnhun@gmail.com 事務局

会報・ホームページ・ブログへの記事投稿のお願い

日本全国にお住いの会員みなさまに楽しんでいただける情報を発信したいと努めております。ハンガリーに関連する情報やイベントについてご連絡ください。連絡先 E-mail: 17-kemiko@kra.biglobe.ne.jp 糸 栄美子

ホームページ <http://www.jpnhun.org/>

ブログ <http://jpnhun.at.webry.info/>

編集後記

日本・ハンガリー外交関係開設150周年記念年、多くの事業、行事、イベントが開催されました。今号では記念年総括の写真と記事をご紹介します。ご参加されたイベント、楽しい思い出として振り返っていただけたらと願います。1年を通してご協力、ご支援いただき、ありがとうございました。

(K.E.)

編集委員: 東 孝江、伊藤和矢、糸 栄美子、瀬川隆生、羽場久美子(五十音順)



エッセンシア

Essencia

ハンガリーの
味と伝統を
お届けします



トカイ・アス・ 6プットニョッシュ

Tokaji Aszú 6puttonyos

深みのある琥珀色で、濃厚な蜂蜜やドライプラム、ローストアーモンド、チョコレートの香りが感じられます。濃厚な甘味が穏やかな酸とアルコール分にバランス良く支えられ、樽由来のタンニンが熟成感を伴いながら余韻の味わいへと導いてくれます。



ハンガリー アカシアはちみつ

Hungarian Acacia Honey

ヨーロッパの中央、ハンガリーの大地に咲くアカシアの花から採れた良質のはちみつです。美しい飴色で、味も香りもクセがなく、料理はもちろん、ドリンクやハーブティーの甘味料としてもおいしくいただけます。

～ ハンガリーとスズキ株式会社の関係 ～

スズキ株式会社は1991年、ハンガリーに「マジャールスズキ社」を設立。翌年より自動車の生産を開始しました。この合併事業は、ハンガリーにおいて、周辺部品産業を含めた工業化の推進に多大な貢献をしていると自負しています。スズキでは、このプロジェクトを契機として、ワイン、ハチミツをはじめ、陶磁器など、伝統に培われたハンガリー製品の紹介にも努めています。

〈協力及び情報提供〉ハンガリー政府観光局、駐日ハンガリー大使館

在浜松ハンガリー名誉総領事館

ハンガリー輸入品ショップ

〒432-8036 静岡県浜松市中区東伊場1-3-1 グランドホテル浜松内 2F

営業時間／月～金12:00～17:00
定休日／土・日・祝日

TEL.053-458-3230

 **SUZUKI**

株式会社 **スズキビジネス** 特販事業部

〒431-0201 静岡県浜松市西区篠原町21339

FAX.053-448-9541 TEL.053-440-1098



■ご希望の方に通販カタログ「Essencia」をお届けいたします。 ■ハンガリーワイン通販サイトホームページアドレス <https://www.hungary-wine.com>